

【セッション4】 今後の備え2 文化財関連団体の体制構築と連携 文化財保存修復学会

日高 真吾 国立民族学博物館



皆さん、こんにちは。文化財保存修復学会の災害対策調査部会の担当理事をしております日高と申します。いつもは国立民族学博物館という立場でお話しさせていただいていますが、今日は文化財保存修復学会の立場からお話をさせていただきます。

まず文化財保存修復学会の災害対策について簡単にご紹介しておきたいと思います。私たちの学会では、平成7年の阪神・淡路大震災を契機に、災害対策調査部会を常設の部会として設置し、被災文化財への災害対策の活動をしております。阪神・淡路大震災のときに、2月17日に設置された阪神・淡路大震災被災文化財等救援委員会に構成団体の1つとして当学会が参加したことが部会設置のきっかけとなりました。

現在も災害対策調査部会は存続し機能しています。現行の体制は、理事3名、正会員から3名の委員で構成しております。そして、一部の業務を担当するというので、特別委員という枠を設け、正会員から1名の方をお願いし、運営しています。

簡単に現行の調査部会の構成メンバーについてご紹介しておきます。まず委員としては、理事会より私と金沢学院大学の中村晋也さん、東北芸術工科大学の米村祥央さんの3名の理事が担当しています。そして正会員の委員として、先ほどご発表いただきました三重県総合博物館の間瀬創さんや、土佐山内家宝物資料館の田井東浩平さん、九州歴史資料館の加藤和歳さんの3名にメンバーに入ってもらって、特別委員として、ずっと災害対策調査部会の部会長を務めておられました、京都造形芸術大学の名誉教授の内田俊秀さんに参加していただいています。

ここでの委員会構成メンバーのツボは、東京は情報が集まってくるだろうということであえて入れていませんが、なるべく日本列島を全面的に見渡せるようなメンバーで配置を考えているということになります。

災害対策調査部会は、阪神・淡路大震災から活動が始まっていくわけですが、大体、次のような活動を行っており（図1）、5つほどあります。

阪神・淡路大震災からの災害対策調査部会の活動

- 1) 災害発生時における被災地および被災文化財の調査
- 2) 被災文化財の保存修復設計
(被災地からの支援要請が出た場合に限る)
- 3) 被災文化財に関するシンポジウム、例会等の開催
- 4) 大会での災害対策調査部会の活動報告
- 5) 学会HPでの災害対策調査部会の活動報告
(2010年に大幅改訂) <http://jscpp.or.jp/index.html>

図1 文化財保存修復学会 災害対策調査部会の活動

最初に、災害が発生したときですが、災害対策調査部会委員で被災地の現地調査を行ったり、あるいは被災文化財の情報収集活動を行ったりします。

その後、被災地から支援要請が出た場合に、被災文化財の保存修復設計を行っています。この活動が、災害対策調査部会の中で、災害が発生したときに実際に活動する一番大きな活動ということになります。

そのほか、被災文化財に関するシンポジウムあるいは例会といったものをなるべく多く開催して、災害への意識づけを会員や一般の方に図るとともに、学会の大会では災害対策調査部会の年間活動についての報告を行います。また、学会のホームページで災害対策調査部会のページをつくりまして、リアルタイムで部会の活動を逐次報告し、会員をはじめ多くの方々に見ていただき、知っていただけるような状態にしています。特にこのホームページについては平成22年に大幅に改訂を加え、見やすさにこだわって作成しました。

それでは、次に実際のこれまでの活動ということで東日本大震災の活動について簡単に紹介します。

まず私たちは平成23年12月には公開シンポジウム「文化財をまもる—災害から文化財をまもる」を、一般公開のシンポジウムとして開催しました。ここでは、東日本大震災という視点もそうですけれども、阪神・淡路大震災以降、被災文化財について、さまざまな形で支援が入っていると

いうことを中心に紹介しました。

そして、平成24年度の大会のときに行われた総会で、世田谷宣言を採択することにしました。ここでは、「今後も災害に対して強い決意を持って取り組んでいくことを改めて確認する」ということで、阪神・淡路大震災からの活動をより強固にしていくという決意表明を打ち出し、会員の皆さんの賛同を得て、取りまとめました。

実際の支援活動は、先ほどご紹介した修復設計を行いました。これは宮城県のほうからの支援要請が出されたことを受けて、気仙沼の平福百穂の山水画屏風の修復設計や、石巻市あるいは亶理町の個人蔵の掛け軸などの修復設計を行い、要請のあった自治体に提案をしていったということになります。

あるいは、平成25年12月6日には、日本と米国の文化財防災研究者意見交換会を開催しました。これは東京国立博物館のほうでさせていただきましたが、IIC (International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works : 国際文化財保存学会) の前会長であるポダニー (Mr. Jerry Podany) さんをお迎えして、特別委員の内田さんを初め、東京国立博物館の神庭信幸さんや東北大学の天野真志さん、あるいは文化庁の朝賀浩さんなどにもご参加いただきまして、意見交換会をしました。

これらの活動もホームページでその内容を紹介していますので、ご興味ある方は見ていただければ幸いです。

そして、来年の話になってしまいますが、ちょうど1年後、今度は公開シンポジウム「文化財を伝える―東日本大震災で被災した文化財を考える」ということで、これは東北歴史博物館で開催したいと考えており、その計画を立てていっているところです。

以上の活動を展開してきた文化財保存修復学会ですが、今後の課題として幾つかあるのかなと考えているものがあります。

まず被災文化財の保存修復設計以外の活動のあり方について、もう少し模索していてもいいのかなと思っています。私たちの学会はさまざまな保存修復の専門家がそろっている学会でもありますので、会員が持っている保存修復技術を活かしたような、例えば応急措置のあり方の勉強会など通してマニュアルづくりを試みてみたり、あるいはワークショップを行ってみたりという活動もできないかと思っています。

そして、被災文化財の情報収集の改善ということで、現在は飛び込みで教育委員会のほうに「どうですか」と話を

聞いて情報収集をしていくということがあります。もう少し会員間の中での連携ができるような仕組みがあってもいいのではないかと考えており、そういった情報交換のための体制について再整理を試みたいと思っています。

あるいは、災害時に一緒に活動を行うことの多い資料ネットワーク、これから後で奥村さんがお話しになりますけれども、そういった団体と、何となくつながっているという今の関係から、もう少しきちっとつながるような形で意見交換ができないのかということも考えていきたいと思っています。

そして、被災文化財の本格的な保存修復を行う予算獲得のための方法論の策定ということにも取り組まなければいけないと思っています。応急措置というところまでは大体、救援委員会の中でもカバーできるわけですが、その後の活動をどう考えていくのかといったときに、特に本格修復となりますと、それなりの予算もかかるということがあります。そこで皆、しっかりと踏み込んだ文化財の保存活動が行えないということもあるわけです。そのような課題について、何とか私たちの学会のほうでも、「こういう助成金などがあるのではないですか」といったことを紹介していただけるような、そういう情報の収集の仕方もしていきたいと考えているということになります。

【半田】ありがとうございました。

それでは引き続きまして、全国美術館会議から、国立西洋美術館の村上さん、お願いいたします。

文化財保存修復学会における今後の備え

一般社団法人文化財保存修復学会
災害対策調査部会担当理事
日高真吾
(国立民族学博物館)

文化財保存修復学会における災害対策

- ・ 阪神・淡路大震災を契機に活動を本格化
⇒ 1995年2月17日に設置された「阪神・淡路大震災被災文化財等
救援委員会」に参加
- ・ 災害対策調査部会を理事会内に設置
⇒ 1995年6月4日設置
⇒ 2014年8月1日改訂
災害対策調査部会の構成メンバー
理事+正会員からの委員で構成。一部の業務を担当する特別委員を
設置

現行の災害対策調査部会の構成メンバー

委員
理事会より
日高真吾 (国立民族学博物館)、中村晋也 (金沢学院大学)、
米村祥央 (東北芸術工科大学)
会員より
間淵創 (三重県総合博物館)、田井東浩平 (土佐山内家宝物資
料館)、加藤和歳 (九州歴史資料館)
特別委員
内田俊秀 (京都造形芸術大学名誉教授)

阪神・淡路大震災からの災害対策調査部会の活動

- 1) 災害発生時における被災地および被災文化財の調査
- 2) 被災文化財の保存修復設計
(被災地からの支援要請が出た場合に限る)
- 3) 被災文化財に関するシンポジウム、例会等の開催
- 4) 大会での災害対策調査部会の活動報告
- 5) 学会HPでの災害対策調査部会の活動報告
(2010年に大幅改訂)
<http://jsccp.or.jp/index.html>

東日本大震災からの災害対策調査部会の活動
公開シンポジウム「文化財をまもる－災害から文化財をまもる」
(2011年12月3日開催)

世田谷宣言の採択 (2012年度総会で採択)
今後も災害に対して強い決意を持って取り組んでいくことを改めて確認し、次の災害への対応について、学会員共有の意思として、大会開催地である世田谷の地にちなみ、「世田谷宣言」として決意表明をしたもの。

宮城県からの要請により、被災文化財の保存修復設計を実施
(2012年)
平福百穂 山水画屏風
石巻市個人蔵 掛軸など
亘理町個人蔵 掛軸など

日本と米国の文化財防災研究者意見交換会「2011年東日本大震災で被害を受けた文化財への対応について」の開催
2013年12月6日

公開シンポジウム「文化財を伝える－東日本大震災で被災した文化財を考える」の開催
(2015年12月17日開催予定)

今後の課題

被災文化財の保存修復設計以外の活動の在り方について模索
保存修復技術の専門家の技術を生かした応急措置方法の開発やワークショップのメニュー作り
⇒ 専門家同士の勉強会の企画および成果のとりまとめ
⇒ 例会等での情報交換の活性化

被災文化財の情報収集の改善
⇒ 会員間の連携のあり方の再整備
⇒ 資料ネットとの連携の可能性

被災文化財の本格的な保存修復をおこなえる予算獲得のための方法論の策定
⇒ これまで実施してきた保存設計と今後の保存修復活動の実態調査
⇒ 助成金等の情報収集